

認定心理士の会から

参加することの意味、あなたの役割は？

最近話題になっている「ホラクラシー組織」——これは上司と部下のような肩書きが無く、フラットな組織体制をもつ新しい組織です。構成員個々が役割を果たすためにどう動くべきかを常に考えて、形態も担当も変化していくイメージです。

認定心理士の会もまた、日本心理学会の一つの委員会として、運営委員会と地方支部会等、ヒエラルキーの組織ではありますが、プロジェクトやイベント等の運営に関しては、委員長から認定心理士の会員の方までが上下の関係ではないことを、ご理解いただきたいと思います。これは、運営委員をはじめ、関わっている全員が無報酬のボランティアであるということも一つの理由です。会の目標「人々の心の健康と福祉の増進に寄与すること」に対して、熱意と時間と知識と経験を提供できる方が、どのようにして、目標への役割を果たせるか。アイデア

を出し、それを実践くださる方々が次々に参加してくださることを期待しております。

そして、皆様が役割を担う現在進行中のプロジェクトが「シチズン・サイエンスプロジェクト」です。ご参加は任意ですが、心理学の基礎知識をもつ



認定心理士だからこそ果たせられる業務です。得られた結果は日本心理学会が解析し、論文発表、学会発表を通じて公表する予定ですので、是非ご参加ください。<https://psych.or.jp/authorization/citizen/>

委員会・支部会はそれぞれが本業の傍ら時間を工面して携わっています。期待に対して不十分であることもございますが、そこはご参加して気がつかれた皆様のサポートを期待したいところです。

(認定心理士の会運営委員会委員 池田琴世)

若手の会から

心理学分野の展望—— 職域拡大の可能性を探る

昨年9月に第1回公認心理師国家試験が実施され、約2万8千人が試験に合格しました。国家資格であることから、職域の拡大が期待されています。これまで心理学は職業に直結しにくい学問であったことから、心理学に関する国家資格ができたことで心理学に関心をもつ若い人が増えることは、一個人としては大変嬉しく思います。それと同時に、公認心理師に限らず、心理学分野の展望についてもっと広い視点で捉え、心理学の社会貢献について次世代を担う私たちが考えることが大切だと思っています。

今年度の日本心理学会第83回大会においても、昨年度の大会に引き続き、若手の会の企画によるシンポジウム、プレゼンバトル・ワンショット発表会、進路相談会などを行う予定です。今年のシンポジウムは、「若手心理学者の

活躍する場—国立の研究機関から民間企業等の新しい活躍の場まで—」というテーマで開催し、心理学者の活躍の場の展望性について議論します。心理学分野で研究職を目指す場合、アカデミア以外のキャリアパスについて少しイメージが湧きにくいのではないのでしょうか？だからこそ、若手に対する多様なロールモデル・多様なキャリアパス事例を紹介し、心理学を学ぶことで活躍できる職域やその拡大について若手の皆さんと一緒に考えたいと思っています。そして、心理学を活かす方法やフィールドについて模索することが、ひいては心理学の社会への貢献可能性を考えることに繋がるのではないかと考えています。

若手の会では、一人でも多くの若手の皆さんに若手の会の活動を、さらには心理学界を一緒に盛り上げていただきたいと強く願っています。多くの皆さんのご参加をお待ちしています！

(若手の会代表幹事 三浦佳代子・前田駿太)